

新潟中越 視察結果

平成28年9月27日
大川小学校旧校舎に関する
震災遺構検討会議(第2回)資料

視察概要

- 日程：平成28年8月28日（日）、29日（月）
- 参加者：
震災伝承検討会議・震災遺構検討会議
（大川小学校旧校舎）メンバー11名、
石巻市5名、コンサル4名 計20名
- 視察先：
中越メモリアル回廊
（新潟県長岡市、小千谷市）



視察行程

【1日目】

午前：移動(⇒長岡)

午後：語り部講話、資料館見学

[長岡市内泊]

【2日目】

午前：公園、資料館見学、意見交換会、震災
遺構、交流施設見学

午後：交流会(昼食)、施設見学、意見交換会

[移動(⇒石巻)]

新潟県中越大震災

- 発生日時：2004年10月23日（土）17時56分
- 最大震度：7
- マグニチュード：6.8
- 震源地：新潟県旧川口町（現長岡市）
- 死者：68人（うち直接死15人）
- 負傷者：4,795人（重傷632人、軽傷4,163人）
- 最大避難者数：103,178人
- 最大避難所数：603か所

中越メモリアル回廊

- メモリアル拠点(4施設・3公園のサテライト方式)を巡り、震災の記憶と記録、復興の軌跡に触れることで震災の実像を伝える仕組
- 各拠点にテーマ、連携体制



おぢや震災ミュージアム そなえ館

震災体験の伝承と防災教育

災害の記録と記憶を伝承し、震災体験からの教訓を活かし、「そなえ」を学ぶ防災学習拠点施設



- 既存施設(市民学習センター)併用・活用施設
- 地震動シミュレーターによる地震災害疑似体験ルーム
- 3時間後の部屋、3日後の部屋...時系列に学ぶ構造

おぢや震災ミュージアム そなえ館

【防災研修プログラムAコース（語り部コース）】

星野剛氏（震災当時は小千谷市塩谷の町内会長）

タイトル：あなたは地震から愛する者の命を守れますか！

- 震災発生当時～避難所～仮設住宅の体験、ボランティアとの関わり、復興の取組み
- 一番伝えたいことは、「住宅の耐震化」推進
- 語り部（講師）派遣の活動を行う「NPO法人防災サポートおぢや」に所属

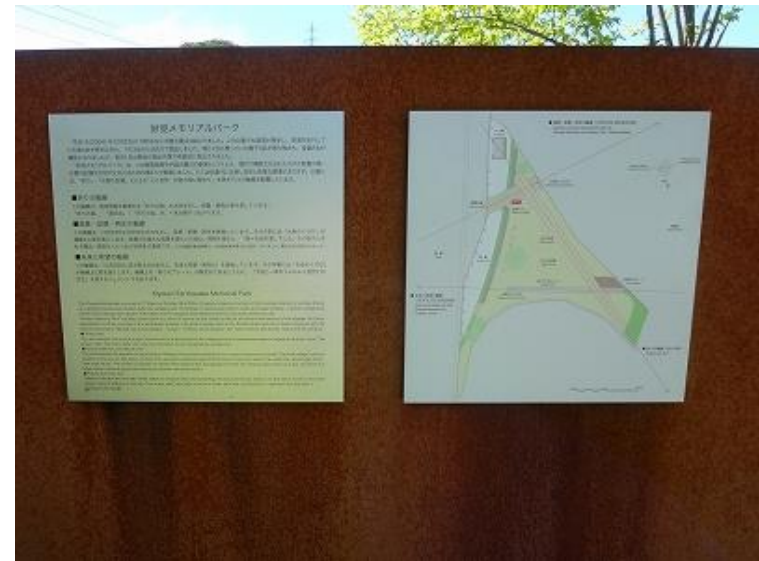


妙見メモリアルパーク

災害被害者の追悼の場

中越地震の記憶の呼び起こしと継承

長岡市妙見町の大規模崩落現場で、当時2歳だった男の子が92時間ぶりに救出された、中越大震災の象徴ともいえる場所



- 説明パネル、献花台設置

やまこし復興交流館 おらたる

震災で見直す「文化・生業」

原風景の再生と地域の持続可能性の獲得を目的とした山の暮らし再生支援拠点



- 既存施設のリニューアル活用
- 展示室は白壁で外からの採光を考えられた造り
- 山間地の地形を表す模型を利用したプロジェクションマッピング展示

やまこし復興交流館 おらたる

【意見交換会】

関氏（おらたるスタッフ）

- 意見交換会の前に、館内展示案内も担当
- 関氏は中越大地震発生時（2004年）小学3年生
- 現在のおらたる展示案内スタッフ3名はいずれも山古志出身の20歳代の若者
- 地域への愛着



木籠メモリアルパーク

防災意識に訴える震災のリアルな傷跡保存 社会的関心の風化防止

山古志木籠の水没集落現場で、芋川の河道閉塞で出来た震災ダムにより水没した家屋が残る場所



- 水没家屋は当初「存置」の方針だったが、後に2棟を震災遺構として保存するため補修工事を実施（手を入れることには賛否あるが、地域住民との話し合いを継続中）
- 震災前の集落図が記された碑、記念碑

木籠メモリアルパーク

【意見交換会】

交流施設「郷美庵(さとみあん)」にて「山古志木籠ふるさと会」メンバーと懇談、昼食(山古志弁当)



- 山古志木籠ふるさと会は集落住民(元住民や家族含む)と外部の賛同者により構成され、郷美庵の物販スペースへの出品やイベントを行う
- 郷美庵は地域の人が集う場所であり、外から来た人と地元の人との交流の場 (交流会で会員から、ここが「居場所」になっているというお話があった)

長岡震災アーカイブスセンター きおくみらい

「知」の集積と中越へのゲートウェイ

中越大震災の残した教訓と知見を蓄積・発信する
拠点施設



- JR長岡駅前再開発ビル(2階)入居施設
- シアタールームにて映像視聴
- 床の被災地マップにタブレットをかざすと地域の情報が表示される

長岡震災アーカイブスセンター きおくみらい

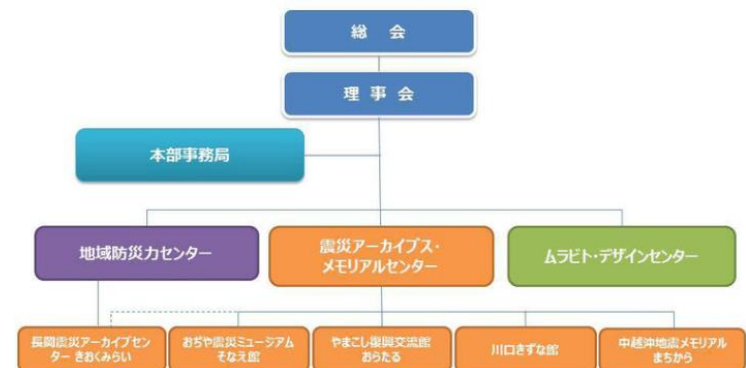
【意見交換会】

山口壽道氏（山の暮らし再生機構理事長）

- 「中越メモリアル回廊」各施設立上げに至る経緯
- 「新潟県中越大震災復興基金」
- 「中越まるごとアーカイブス」
- 運営組織「公益社団法人 中越防災安全推進機構」の機能と役割、今後のビジョンに
- 将来的には地域主導の活動へ
- 継続的な話し合うことの重要性



公益社団法人 中越防災安全推進機構 組織体制



【参考】新たな業務展開とネットワーク構築

(山口氏との意見交換会資料)

